

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和7年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2025-2	望ましい事業評価の指針策定にむけた研究開発	神戸大学 教授 小池 淳司	C
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>本研究は、諸外国の最新の事業評価動向を調査したうえで、事業評価における専門家判断の役割と実施内容を明確にし、社会的効率性と権利の両概念に基づく定量・定性的評価手法をとりまとめ、事業評価担当者向けの「事業評価指針(案)」を策定する。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に調査を行った内容について、年度ごとの成果を明確に報告書に記載いただくと共に研究内容に即した費用設定とすることが望ましいと考える。</li> <li>・日本の事業評価がおかれた文脈における専門家判断の実態確認・課題整理について、質的な意味での実証的分析を補足することが望ましいと考える。</li> <li>・研究計画に沿って適切に研究が進められているところであるが、事業評価指針としてのアウトプットを踏まえて調査研究をお願いしたい。</li> </ul> <p>&lt;今後の研究計画・方法の修正事項等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国によって、政治制度・法体系も異なり、また、文化的・社会的・歴史的背景が異なる。社会的公正・公平に対する考え方も異なる。それらの情報と併せて評価の在り方を考える必要があり、単に、欧州ではこうなっているという報告になり兼ねない。各国でどのような議論があって今のような評価の形になっているのかを、きちんと調査・考察すべきではないか。</li> <li>2. 指針策定に向けては、国内の諸制度とどのように融和させるかが課題であり、それに対してどのようにアプローチするかが不明瞭である。本研究の目的は海外の事例収集に留まるものではないと認識しているが、その見通しが不明確である。共同研究者との役割分担を明確にし、目標達成までの見通しを明確にさせていただく必要がある。</li> <li>3. 定量的な費用便益分析等の既存評価手法と、アクセシビリティ指標をはじめとする社会的正義・権利に関する評価との関係性や役割分担について、今後、成果の整理や外部発信の中で、その位置づけがより明確に示されることが期待される。</li> <li>4. 順調に見えて楽しみではあるが、政策の実務の方に受け入れられるかなども重要だと思われるため、本省などとも定期的に意見交換を試みるのはどうか。実際には理屈だけでは変わりづらいかもしれないので、変え方そのものも議論が必要なのかもしれない。</li> <li>5. 「事業評価担当者向けの『事業評価指針(案)』」策定に向けて実施する「基礎的検討」の具体化が望まれる。</li> <li>6. 海外事例の収集・比較にとどまらないよう、事業評価の担当者が実務として活用できる指針の具体的な作成イメージを踏まえて研究いただきたい。また、事業評価部会において総合的な評価手法のあり方について議論がなされているところであり、当部会への展開や事業評価制度の見直しを見据えながら、引き続き研究を進めていただきたい。</li> </ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第56回新道路技術会議において審議したものである。